

# 自然災害対策

## ソロモン諸島にお住まいの皆様へ

- 本資料は、自然災害対策として、事前の備えや自然災害発生時の対処法等の基本事項をまとめたものです。安全対策の一助としてご活用ください。
- 本資料に基づき行動したことにより生じるいかなる損害や不利益に対し、当館は責任を負いかねます。



## 在ソロモン諸島日本国大使館（領事・警備班）

TEL 677-22953,23641,21073 / EMAIL [ryoji.sm@sm.mofa.go.jp](mailto:ryoji.sm@sm.mofa.go.jp)

/ HP [https://www.sb.emb-japan.go.jp/itprtop\\_ja/index.html](https://www.sb.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html)

4th Floor, Point Cruz Arcade Building, Hibiscus Avenue, Point Cruz, Honiara

## <目次>

1. はじめに
2. 事前の備え
3. 自然災害発生時の対処
  - (1) 台風(サイクロン)
  - (2) 雷雨・落雷
  - (3) 洪水
  - (4) 地震・津波
4. 緊急時の必需品(備蓄品)一例
5. 関係機関リンク集

## 1. はじめに

ソロモン諸島政府は、ソロモン諸島で発生しうる自然災害として、「暴風雨」「洪水」「地震」「地滑り」「火山噴火」「津波」等を挙げています。また、ソロモン諸島は災害リスクが全世界で33位となっており(※1)、世界的に見ても災害リスクが高い国であることが分かります。

(※1)「WorldRiskReport 2024」

<https://reliefweb.int/report/world/worldriskreport-2024-focus-multiple-crises>

対策にあたっては、「いかなる災害も起こり得る」との認識を持つことが肝要です。災害の傾向には地域差があるため、お住まいの地域において発生する可能性が高い自然災害について、あらかじめよく把握しておくことが重要です。

本資料は、主にソロモン諸島及び日本の関係機関の資料を参考に、自然災害から身を守るための事前の備えと災害発生時の対処方法をまとめたものです(※2)。

(※2)本資料に示す内容は、当地において起こりえる自然災害を網羅したものではございません。また、自然災害対策として行うべき全ての事項を網羅したものではありません。

皆様におかれては、自然災害対策の第一歩として本資料をご活用いただき、さらにソロモン政府がホームページ等に掲載する情報を参考に、お住まいの地域(例:沿岸地域、河川付近、低地等)や家族構成(例:乳児がいる、足が不自由な家族がいる)など、各ご家庭の状況に応じた自然災害対策に取り組んでください。本資料がその一助となれば幸いです。

なお、本資料に関し、ご意見やお気づきの点があれば、当館領事・警備班へご連絡ください。また、ご家庭で取り組まれている自然災害対策があれば、今後の資料改訂の参考とさせていただきます。ぜひ当館までお知らせいただければ幸いです。

## 2. 事前の備え

「気象警報や避難勧告はどうやって受け取るの?」「避難所はどこ? 避難経路は?」「緊急時の必需品は?」

お住いの地域で自然災害が発生した場合でも、パニックに陥ることなく、落ち着いて適切な行動がとれるよう、日ごろから自然災害を想定した事前対策をしましょう。

### (1) 情報収集に努めましょう

- 自然災害から身を守るためには、情報収集が極めて重要です。正確な情報を迅速に入手できるよう、緊急時にどのような媒体・方法で情報発信がされているのか、あらかじめ確認しましょう。
- 災害発生時には当館も情報発信します。
  - ・災害や重大事件の発生に際しては、当館からも在留届および「たびレジ」に登録されたメールアドレスへ日本語で情報発信します。
  - ・当地に3か月以上お住まい(予定)の方は在留届の提出を、また、当地に観光や出張等で短期間滞在する方は「たびレジ」の登録を必ず行ってください。

◎在留届の提出、「たびレジ」の登録はこちら：<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/index.html>

### (2) ご自宅の水害リスクを確認しましょう

### (3) 非常用の備蓄品と持ち出し品を確認しましょう

- 災害による停電・断水などのライフライン断絶や、飲料水・食料品・燃料の不足等に備え、必要となる備蓄品を十分に確保しましょう。また、備蓄品に加え、当局の指示で避難する場合の持ち出し品をあらかじめ検討・準備しておきましょう。
- 備蓄品の維持管理
  - ・缶詰は、高温多湿を避けて保管する
  - ・紙箱に包装されたものは、密閉できるプラスチックや金属製の容器に詰め替える
  - ・毎年、家族の事情の変化を踏まえ、必要となる備蓄品を再検討する
  - ・避難時にすぐ持ち出せるよう保管する(保管場所は家族全員が把握する)
  - ・職場にも、最低 24 時間待機することを想定した緊急時必需品(備蓄品)を保管しておく
- 車両の備え
  - ・必要な用具を車両に搭載しておく(ブースターケーブル、三角反射板、車用携帯電話充電ケーブル、毛布等)

- ・日ごろから車のメンテナンスを定期的に行う
- ・停電や避難の可能性が見込まれる場合は、早期にガソリンを満タンにしておく(日ごろから、ガソリン残量が半分以下になったら給油することが好ましい)

#### (4) 避難場所と避難経路を確認しましょう

#### (5) 家族間の連絡体制を確認しましょう

- 自然災害は必ずしも在宅の際に起きるわけではありません。例えば、平日の日中に突発的な災害が生じた場合、両親はそれぞれの職場、子供は学校や保育施設にいること等も想定されます。こうした状況に備えて、日ごろから連絡体制を確認しておくことが重要です。
    - ・家族や友人、知人間の普段の連絡手段(携帯電話、Eメール等)が災害時に機能しないことも想定し、お互いの職場等の連絡先をメモしておく。
    - ・子供の学校や保育施設等の連絡先をメモしておくことに加え、学校・施設等からの緊急一斉連絡を確実に受信できるよう、両親の最新の連絡先が登録されていることを確認する。
    - ・災害の影響地域内にいる者同士の通信が停滞(※)する場合でも、他地域への長距離通話は可能な場合があるため、例えば他地域に住む親戚や友人に家族間連絡の「仲介」を依頼しておくことも一案です(その場合、あらかじめその仲介者の連絡先を家族全員が把握することが必要)。
- ※通話ができない状況でもテキスト・メッセージ(SMS)の送受信は可能な場合があります。
- ・大使館の緊急連絡先も、あわせてメモしておいてください。

#### (6) 自宅の災害対策を確認しましょう

##### (一軒家の場合)

- 倒木対策  
強風による倒木で自宅が損壊する危険性があります。庭木に倒木リスク(腐朽、枯死など)がないか定期的に確認しましょう。リスクがあると判断される場合は、専門業者等に伐採や剪定、支柱設置等につき相談することをお勧めします(※伐採には行政の許可が必要な場合があります)。
- 落雷対策  
落雷による過電圧・過電流がご自宅の家電、電子機器に侵入するのを防ぐため、サージ防護装置(surge protector)の使用が推奨されています。落雷リスクが生じても電源プラグや通信ケーブルを抜くことができない場合に有効です。
- 浸水対策  
集中豪雨等には、下水道管からの逆流(トイレ、風呂場等)や道路側からの雨水流れ込

みによる浸水被害が発生する可能性があります。水害リスクの高いエリアにお住いの場合は、下水逆流防止のための汚水用排水ポンプ槽の設置（施工上、建築後の設置は困難な場合もあります）、雨水流れ込み防止のための土嚢、止水板等の用意が推奨されています。

**（アパートの場合）**

- 非常口の場所を確認。
- 避難経路を二つ以上確認。
- 災害時は窓に近づかない。
- 階段を下りる際は、救急隊の邪魔にならないよう右側に寄る。

**（お願い）**

お住まいの地域に当局からの避難指示が発せられた場合は、自宅を施錠し、当局の指示に従い落ち着いて避難した上で、ご自身の安全について、日本のご家族や関係者および当館（領事班）へご連絡ください。

※特に大規模な自然災害の場合、報道等から災害を知った日本のご家族等はあなたの安否を心配されます。仮にお住まいの地域に直接的な影響がなくとも、日本の関係者への連絡を心がけてください。

### 3. 自然災害発生時の対処

#### (1) 台風(サイクロン)

- 熱帯低気圧が強まることにより発生する自然現象。北太平洋の南西部に発生する熱帯低気圧のうち、最大風速が毎秒 17.2 メートル以上に発達したものが台風です。
- 台風がもたらす暴風・大雨は、洪水・鉄砲水、倒木等を引き起こし、建物損壊や浸水、道路の冠水、停電等ライフラインの断絶、交通インフラへの影響による飲料水や食料品の不足等が生じる可能性があります。

#### 台風(サイクロン)の接近・上陸の兆候がある場合(注意警報が発せられた場合)

- 気象警報、当局の措置等に注意(避難の必要性を判断してください)
- 備蓄品・持ち出し品の点検・確保
- 避難場所の確認
- 生活用水の確保
  - ・バスタブやバケツ等に水をためておく
- 車のガソリンの確認
  - ・台風接近前に給油する(ガソリンスタンドも閉鎖する可能性があります)
- 停電への備え
  - ・電池式照明灯、停電時の照明を準備する(注:安全上、ろうそくよりも電池式照明灯を推奨します)
  - ・スマートフォン、バッテリー類を充電する
  - ・多く製氷する、保冷剤を多めに冷凍する等
- 重要資料の点検
  - ・保険証や身分証明書等の重要資料を確認し、コピーを作成したりデジタルスペース等の安全な場所に保管する

#### 台風(サイクロン)通過中

- 屋内の安全な場所に待機
  - ・窓がない部屋や場所で待機する
  - ・台風通過中は外出を控える(倒木、屋根・看板等の飛来物のほか、多くの危険があります。やむを得ず(車で)外出する場合は、冠水した道路には絶対に侵入しないでください)
- 気象警報、当局の措置等に注意
  - ・最新情報を頻繁に確認し、避難指示が発せられたら即時に行動する
- 停電時の対処

- ・家電類の電源プラグはコンセントから抜いておく(復旧時に家電類が一斉に運転をはじめると、ヒューズが切れたりブレーカーが落ちたりすることがあります)
- ・冷蔵庫の下・周辺にタオルを敷くなど、漏水対策する
- ・保冷剤を冷蔵庫へ移す(一度も開閉しない場合でも、停電から2～3時間で庫内温度の上昇が始まります。停電発生とともに凍った保冷剤を冷蔵庫へ移すと保冷効果が高まります)

### **台風(サイクロン)通過後**

- 警報解除の確認
  - ・ソロモン諸島気象局からの警報解除の発表を確認する。
- 不要不急の外出を控える(台風通過後もしばらくの間は様々な危険があります)
 

やむを得ず外出する際の留意点:

  - ・車で移動する際は、電線や倒木、倒れたフェンス、その他の障害物に注意し、予測運転を心がける
  - ・徒歩で移動する際は、垂れ下がった電線やガラス片等の破損物に十分注意する
  - ・水たまり等は、漏電や汚染されている可能性があるため避ける。また、ガス、化学品の匂いがしたら、速やかにその場から離れる
- 避難先から自宅に戻る際は、以下に留意
  - ・家の中を片付ける際は、厚底靴、長ズボン、手袋等を着用し、他の人と一緒に片付ける
  - ・感電する恐れがあるので、水に濡れている電化製品には触れない。特に床上浸水している場合は、電化製品に触れない

### **(2)雷雨・落雷**

- 雷雨は、大雨や強風、落雷等を伴い、様々な二次災害を引き起こし得るため、注意が必要です。

#### **雷雨・落雷の兆候がある場合(注意報が発せられた場合)**

- 屋外にいる場合は、速やかに屋内または車内に避難する
  - ※車内は落雷に対して比較的安全とされますが、洪水(鉄砲水)時は危険です
  - 安全な建物や車に避難する時間が無いとき:
    - ・ひらけた場所や海岸等にある高い木の下は避ける
    - ・河川や海等の水のそばからはすぐに離れる
    - ・金属製のものから離れる(金属製品を手を持たない等)
- 気象警報に注意
- 電化製品等のプラグや通信ケーブルを抜く(コンセントに接続された電子機器は使用



しないでください)

- (状況が許せば)屋外にある自転車や植木鉢等を屋内へ移動、または固定
- (水害リスクがある場合で状況が許せば)土嚢や止水板等の設置

### **雷雨・落雷がおさまった後**

- 気象情報等から雷雨・落雷がおさまったこと、二次災害の危険性がないこと等を確認
- 電線の破損や倒木等に注意

### **(3)洪水**

- 洪水は、一定範囲に大量の雨が降り続くこと等により河川の水量が増え、水が陸地へと流れ込み、道路や住居等が浸水することを指します。また、短時間に大量の雨が降ったことにより川の水位が急上昇し、上流から下流に押し寄せた大量の水が陸地に一気に流れ込むことを一般的に鉄砲水と呼びます。鉄砲水は、降雨から時間をおかずに発生し注意警報が間に合わないこともあるため、特に注意が必要です。

### **洪水災害の兆候がある場合(注意警報が発せられた場合)**

- 気象警報、当局の措置等に注意(避難の必要性を判断してください)
- 備蓄品・持ち出し品の点検・確保
- 生活用水の確保
  - ・バスタブやバケツ等に水をためておく
- 停電への備え
  - ・電池式照明灯、停電時の照明を準備する(注:安全上、ろうそくよりも電池式照明灯を推奨します)
  - ・スマートフォン、バッテリー類を充電する
  - ・多く製氷する、保冷剤を多めに冷凍する等
- 重要資料の点検
  - ・保険証や身分証明書等の重要資料を確認し、コピーを作成したりデジタルスペース等の安全な場所に保管する
- 自宅周辺の確認(水害リスクがある場合で状況が許せば)
  - ・土嚢や止水板の設置
  - ・屋外私財をなるべく高い場所へ移動する

### **洪水災害発生中**

- 気象警報、当局の措置等に注意
- 避難する場合／屋外にいる場合の主な注意点:**
- ・出来るだけ高い場所へ向かう(海、河川、低地に向かわないでください)

- ・(浸水が差し迫っている場合)車で避難しない。車を運転中の場合、冠水した道路には進入せず迂回する
- (指示がある場合)水道、ガス等のスイッチを切り、バルブを閉める。電化製品等のプラグや通信ケーブルを抜く(ただし、手が濡れていたり、足元が水浸しの時は器具に触れないでください)

### **洪水災害がおさまった後**

- 避難した場合は、注意警報の解除を確認してから帰宅
- 家の中に入る前に、柱等、構造的な破損の有無を確認(懐中電灯携帯、片付けの際には厚手の手袋やブーツを着用してください。濡れた場所で電気器具には触れず、浸水した薬品、食料は処分してください)
- 緊急でない場合は直後の運転は避ける
- 洪水で生じたぬかるみを歩かない(地下の電線により感電する危険性があります。また、蛇などの動物がいる可能性もあります。)
- 発電機やその他ガソリン等を使う機械は、屋外で窓から離して使用する

### **(4)地震・津波**

- ソロモン諸島及びその周辺国は地震火山活動が活発な環太平洋造山帯に位置しており、ソロモン諸島近海においても度々地震が観測されています。また、実際に2016年12月9日、2022年11月22日にはマグニチュード7を超える地震が発生していることから、万が一に備え、対策を講じる必要があります。

### **地震発生時の注意点**

#### **<自宅の場合>**

- 丈夫な机の下など安全なスペースに避難
- つり下がっている照明などの下から避難
- 慌てて外に飛び出したり無理に火を消そうとしない
- 暗闇では、割れた窓ガラスや照明器具の破片でけがをしやすいので注意

#### **<職場の場合>**

- 窓ガラスが割れることがあるので、窓際から離れる
- OA機器などの落下に注意
- 常日頃から整理整頓をするなど職場環境をよくしておく
- 外に逃げる際は落下物に注意

#### **<屋外の場合>**

- 住居や建物からの落下物に注意
- 電柱が倒れてくることもあるため、近くから離れる

- 海岸で強い揺れを感じた場合は、安全な高台や避難地へ向かう(津波は繰り返し襲ってきて、第一波の後に更に高い波が来ることがあります。一旦波が引いても絶対に戻らないでください)
- 河川の近くで強い揺れを感じた場合は、川の流れに対して直角方向に避難
- 山や斜面では落石や崖崩れに注意

#### <運転中の場合>

1. 急ブレーキを踏まずに前後の車に注意しながら徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車する
2. エンジンを切り、揺れがおさまるまでは車外に出ず、カーラジオやスマホから情報を入力する
3. 避難の必要がある場合は、車のキーをつけたままにし、ドアをロックしないで、窓を閉める
4. 連絡先を見えるところに書き、貴重品を持ち徒歩で避難する

#### **揺れがおさまった後**

- 周囲の安全を確認し、身の安全を確保する(慌てて行動すると、転倒した家具類、飛び散ったガラスの破片等でけがをする恐れがあります)
- 小さな揺れの時、又は揺れが収まった後に、戸を開け出口を確保する
- 外に出る際、ガラスや看板等が落ちてくる可能性があるため、周囲を確認する
- 避難する際は電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉める
- 避難をする際は原則徒歩で避難する(車を使用すると渋滞を引き起こし、消防・救急活動などに支障を来します)
- 携行品は歩きやすいよう背負える範囲のものにとどめ、服装は活動しやすいものにする

## 4. 緊急時の必需品(備蓄品)一例

避難に至らない場合でも、ハリケーン被害等により、お住まいの地域の水道・電気等のライフラインが断絶し、飲料水や食料品の供給が一時的に途絶えることを想定し、以下の備蓄品を平時から確保しておくことをお勧めします。

※推奨される備蓄物品やその量については、関係機関ごとに相違があります。以下は一例ですので、各自の状況に応じ、必要な物品・量を検討してください。

### ■ 備蓄品

- 飲料水 ※1日1人あたり約 3.8 リットルが目安
- 保存食 ※缶切り、使い捨ての食器等も併せて用意(少なくとも 3 日分)
- 電池式携帯ラジオ
- 懐中電灯、ろうそく、マッチ/ライター
- 予備電池(モバイルバッテリー)
- 現金、小切手 ※停電により ATM やクレジットカードが使えない場合がある
- ベビー用品(粉ミルク、紙おむつ、哺乳瓶、薬等)
- ペット用品(ペットフード、リード等)
- 救急箱(絆創膏、包帯、消毒液等)、常備薬、処方薬
- ゴミ袋
- ウェットシート

### ■ 緊急避難用

※避難に備え、上記備蓄品に加え、以下を用意しておくことをお勧めします。

- 着替え、合羽やポンチョ等の雨具(防寒具兼用)
- 毛布、寝袋、使い捨てカイロ
- 自宅と自動車の予備キー
- 家族との緊急時の集合場所を記したメモや周辺地図
- ホームドクターの連絡先
- 家族全員の健康・医療情報 ※持病やアレルギーは英訳文も併せて準備
- パスポート、写真付き ID、保険証等、重要書類 ※コピーも別に携行
- 警笛
- 石けん、歯ブラシ等の衛生管理用品
- トイレtpペーパー、キッチンペーパー
- スニーカー等の丈夫で歩きやすい靴

- 予備のめがね
- 虫除けスプレー
- マスク、ゴム手袋、除菌ジェル(感染予防)
- 処方箋(処方薬を服用している場合)

## 5. 関係機関リンク集

### □ 政府機関

- National Disaster Management Office(国家災害管理局)  
Facebook: <https://www.facebook.com/NDMOSI/>
- Meteorological Services Division(ソロモン気象局)  
ホームページ: <https://met.gov.sb/>  
Facebook: <https://www.facebook.com/groups/Slweather>

### □ 災害情報の収集

- United States Geological Survey(地震)  
ホームページ: <https://www.usgs.gov/programs/earthquake-hazards>
- U.S. Tsunami Warning System(津波)  
ホームページ: <https://tsunami.gov/>

### □ ユーティリティ事業者

- Solomon Power(電力)  
ホームページ: <https://solomonpower.com.sb/>  
Facebook: <https://www.facebook.com/people/Solomon-Power/100063458096990/>
- Solomon Water(水道)  
ホームページ: <https://www.solomonwater.com.sb/>  
Facebook: <https://www.facebook.com/SolomonWater/>
- Telecommunications Commission Solomon Islands(通信)  
ホームページ: <https://tcsi.org.sb/>
- Our Telekom(携帯)  
ホームページ: <https://www.ourtelekom.com.sb/>  
Facebook: <https://www.facebook.com/ourtelekom/>
- bmobile(携帯)  
ホームページ: <https://www.bmobile.com.sb/>  
Facebook: <https://www.facebook.com/bmobileSI/>